

近聞遠見



岩見 隆夫

どの政界にどの候補者に、と最後まで迷った有権者が少なくなくなったという。1週間前の参院選だ。

迷った結果はご承知の通りだが、そのなかで意表をついたのが、民主党比例代表のトップ当選を飾った有田芳生(ジャーナリスト・58歳)の37万3834票だった。

有田はテレビコメンテーターの経験が長く、顔が売れているが、地味なタイプで、Aランクの有名人ではない。しかし、2位に回った超Aランクの谷亮子(柔道家・34歳)を約2万票も引き離れた。なにが起きたのか。

谷が小沢一郎幹事長(当時)に伴われて出馬表明の記者会見をした時、民主党の幹部たちは、「当確だな」

と口をそろえた。出るだけで当選、というニュアンスだった。過去の選挙経験がそう言わせている。しかし、有田には、小沢が、「なんとか20万票とれ」と指示しただけで、当確をほめかすものなどたれもない。心の中で、20万票を目標にしたが、組織の応援ゼロの孤独な戦いだった。

結果は14都道府県で谷票を上回る。特に東京の得票は全国1位の6万8000票、谷の倍に近く、東京で2回の参院選当選歴を持つ保坂三蔵(自民・落選)にも勝った。有田に聞いた。なぜそんなに得票できたのか。

「わからない。心境は複雑だった。2回落ちている(07年の参院選比例代表、09年の衆院選東京1区)し、60歳過

有田芳生「37万票」の意味

きた新人はない。どうしても今回は、と思った。

投票日が近づくと、マスコミの調査結果は尻上がりになって、『全国トップだ。50万票はいくゝなんて言われ、よ

けい不安になったが、欲も出てきて、『谷さんをトップにしたいけない。民主党の印象が悪くなる』と思ったりした

るが、△有田▽の名前と結びつかない。△オウム真理教と徹底的に闘い、拉致問題でも行動した元祖・現場主義▽と

チラシに刷り、全国まんべんなくコソコソと歩いた。また、△ア行効果▽があった、と有田も民主党関係者も

言う。投票所で候補者名簿の最初に名前が載るのが有利に

得票でトップ当選した。以来、多くのテレビ有名人が政界入りしては消えてい

たが、△超▽がついただけでは、もはや神通力はない。今回は並の有名人がほとんど落ちた。プロ野球3人衆(堀内恒夫、中畑清、江本孟紀)は合

わせても25万6000票、有田1人より12万票少ない。有権者の選択眼は確実に肥えてきた。有田は、「政治家らしくないと言われるが、自分は自分です。いろんな人が(政界に)いていいんじゃないか」と言う。そんな気張らない、きまじめなコソコソ派を、有権者は見逃さない。知名度だけがでなく、役に立つかどうかを見分けようとしている。好ましい流れだ。



え・西村晃一

有田は雑誌編集者などをとつとめたあと、3年前まで通算14年、TBS、日本テレビで解説者をした。特にオウム事件でしぶとく論陣を張る。いわゆるテレビ有名人の一人である。

しかし、派手さがなく、認知度が低い。顔は知られてい

動く。そんなことも多少あるのかもしれない。だが、今回の選挙戦を振り返って、有名人戦線に異変が起きたことを思わせる。谷の

ような超Aランクの源流はミスターNHKの宮田輝だ。74年の参院選全国区に自民党公認で出馬、259万票の大盤

だが、民主党は敗れた。敗因について、有田はこう言った。「政治家の信念のブレです。真かないと。(リーダーのブレ)私も『うそつき』と怒鳴られたり、チラシを破られたり、しましたから」(敬称略)

「政治家の信念のブレです。真かないと。(リーダーのブレ)私も『うそつき』と怒鳴られたり、チラシを破られたり、しましたから」(敬称略)